

大草谷津田いきものの里 自然観察会

食用、薬用、見分けよう！

山岸文子（千葉市）

日 時：2014年3月16日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：28名（大人18名、子ども10名）

担当指導員：田井中信子・山岸文子

予想に反して若い人達や子供連れの参加者が多い。まず、大草の成り立ちと趣旨と注意事項……観察路以外の立入制限と、生きものを持ち込まない、持ち出さないというルール……を伝える。

ネコヤナギの枝を示してアスピリンの原料がヤナギの仲間である事、植物を原料とする薬も多いことを話す。駐車場の階段を下りてすぐにノビルの群生。皆さんよくご存じで若い人が「スパゲティに入れる。」キツタ・アオキと進み、竹林のところで「タケノコ

大好き！」と言う男の子。青竹に卵を割り入れて蒸し焼きにしたタケタマゴを幼い頃に食べた経験話す。はしかで高熱が続いて何も食べられなかったのに不思議に美味しくてすっかり元気になった。



雪折れしたイヌシデの枝にイラガの繭。成体と幼虫の写真を示して触らないでね！と説明。

ムラサキケマンの若葉が美しいが毒ですよ。ナンテンの薬効と、「難転」の字を当てようになった由来を話す。斜面にナガバジャノヒゲの肥大根が露出している。麦門冬湯（ばくもんどうとう）として滋養強壮（咳止）に用いられる。葉にノウサギの食痕があるのを観察。加入谷に降りた処でルリタテハ・アカタテハが飛んで

いる。厳しい寒さを越えて、春の日差しを喜んでいるようだ。ヨモギ・タンポポ・セリ・ドクダミ・ハハコグサなどのお馴染みの草が若い葉を伸ばしている。枝をたぐり寄せて、ウスタビガの繭を観察。順番に繭上部をパカッと開けて遊んだ。駐車場に戻り、摘み草のマナーを話す。オプションで試食会。ヨモギの草だんごとナズナの和え物。口の中にも春を感じていただけたかな？

